



雲南

うん

なん



Yu-Gaku 加茂スポーツクラブ レスリング部

平成29年 12月定例会

● 12月定例会報告	2
● 年頭のあいさつ	3
● 主な補正予算、議案の審査と結果、請願審査結果	4
● 委員会報告	5
● 一般質問	7
● 視察報告	10
● 中学生本会議傍聴記	13
● 議会報告会・編集後記	14

補正予算可決

●スポーツ施設の個別施設計画
策定支援事業



214万円

●道の駅たたらば壱番地整備事業



950万円

●ふるさと納税推進事業



115万円

平成29年12月定例会は、12月8日から22日まで、15日間の会期で開催しました。雲南市支所設置条例の一部を改正する条例や、一般会計及び特別会計等の補正予算など、上程された88件の議案を慎重に審議した結果、全議案とも、原案のとおり可決しました。

一般会計 3億7,400万円の (補正後総額 291億480万円)

年頭のあいさつ



議長 藤原 信宏

新年あけましておめでとうございます。

国においては、少子高齢化による経済・産業の構造的な問題を克服するため、働き方改革による成長と分配の好循環の実現、人材への投資を通じた生産性向上の取り組みが進められています。本市においては、引き続き「第2次総合計画」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づいたまちづくりを推進していきます。市立病院の新棟竣工、健康づくり拠点施設等の開設が予定され、国民宿舎清嵐荘や永井隆記念館等の施設整備が本格化いたします。これらの取り組み

みが「人口の社会増への挑戦」に向けたまちづくりの基盤となるよう期待するものであります。

議会は、地方分権の進展に伴って自治体の自己決定の範囲が拡大し、その役割が益々重要になってきております。資質向上と機能強化に研鑽努力し、多様化する市民の皆様のご意見を的確に施策に反映していくことで市勢の発展と福祉の向上に努めて参ります。一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本市の飛躍を願い、皆様にとってご健勝で実り多い年となりますようご祈念申し上げます、年頭のご挨拶いたします。

主な補正予算（一般会計）

(単位：千円)

項目	内容	補正額	補正後総額	備考
介護給付・訓練等給付事業	障がい福祉サービスの利用増、及び報酬改定に伴う事業費の増等	46,312	1,139,512	
障がい児通所給付事業	障がい児通所サービスの利用増	3,925	39,925	
LD教室運営事業	子ども家庭支援センター学習塾の施設改修費	2,646	8,173	
小学校特別支援学級設置事業	H30年度に木次、吉田小学校に設置する特別支援学級の施設改修費	1,415	1,415	新規
	上記に係る備品整備費	789	789	
担い手農地集積事業補助金	担い手への農地集積予定面積の増	2,823	12,682	
中山間地域等直接支払制度交付金	超急傾斜取組加算の要件緩和に伴う取組み面積の増	11,176	283,176	
林地崩壊防止事業	大東、加茂、木次における7カ所の工事費等	27,700	32,770	
道の駅たたらば壺番地整備事業	浄化槽改修設計変更に伴う工事費増	9,500	38,000	
清嵐荘整備事業	施設撤去費、用地購入費等	68,859	128,618	
道路維持補修事業	維持補修（112カ所）、修繕工事（3カ所）等	13,676	72,807	
宅地購入補助金	子育て支援に資する民間宅地購入に伴う補助金（50万円×6件）	3,000	13,000	
小学校教師用指導書・準拠教材整備事業	H30年度から使用する教師用の小学校道徳教科書、指導書等の購入	5,988	5,988	新規
スポーツ施設の個別施設計画策定支援事業	大東体育文化センター、掛合・木次・斐伊体育館の今後の施設のあり方に係る計画策定のための資料作成	2,143	2,143	新規

議案の審査と結果

条 例	採決結果	採決状況
雲南市支所設置条例の一部改正	可決	全会一致
雲南市職員の育児休業等に関する条例の一部改正	可決	全会一致
雲南市交流センター条例の一部改正	可決	全会一致
雲南市児童クラブ条例の一部改正	可決	全会一致
雲南市立図書館条例の一部改正	可決	全会一致
雲南市漆仁の里交流館条例の一部改正	可決	全会一致
雲南市立病院使用料及び手数料条例の一部改正	可決	賛成多数
雲南市議会の議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正	可決	賛成多数
雲南市特別職の職員の給与等に関する条例の一部改正	可決	賛成多数
雲南市職員の給与に関する条例の一部改正	可決	全会一致

一般事件	採決結果	採決状況
公の施設の指定管理者の指定（60件）	可決	全会一致

報 告
議会の委任による専決処分（3件）

予 算	採決結果	採決状況
一般会計（第4号）	可決	全会一致
一般会計（第5号）	可決	賛成多数
国民健康保険事業特別会計（第3号・第4号）	可決	全会一致
生活排水処理事業特別会計（第3号）	可決	全会一致
土地区画整理事業特別会計（第1号）	可決	全会一致
水道事業会計（第3号・第4号）	可決	全会一致
工業用水道事業会計（第2号・第3号）	可決	全会一致
病院事業会計（第3号・第4号）	可決	全会一致

同 意	採決結果	採決状況
雲南市教育委員会委員の任命	原案同意	全会一致

諮 問	採決結果	採決状況
人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	適任	全会一致

委員会報告

総務常任委員会

委員長 小林 眞一

(議案の審査)

委員会に付託及び委託された22件の議案について審査し、全て可決すべきものと決定しました。

(条例等の審査状況)

・雲南市支所設置条例の一部を改正する条例

掛合総合センターの新築に伴う、同センターの位置を変更するものです。移転の期日はとの問いに、現時点では確定しておらず改めて規則で定めるとの答弁でした。

・雲南市交流センター条例の一部を改正する条例

掛合総合センターと合築される掛合交流センターの位置及び使用料を変更するものです。児童クラブと図書センターが交流センターに入るが、使用料はとの問いに、使用料の徴収はしないが、光熱水費は、メーターで区分し、児童クラブ使用分については適切な負担

となるようにするとの答弁でした。



新築中の掛合総合センター・掛合交流センター

(主な予算の審査状況)

・平成29年度一般会計補正予算(第4号)

・ふるさと納税推進事業 115万円は、寄附拡大に向けたPR強化のためのパンフレット作成に係

る経費です。

9月定例会でも寄附受け入れの増額に伴う経費として1,250万円余りの増額補正でした。このパンフレットをどのように活用するのかとの問いに、より充実した内容で作成し、インターネットを経由せず直接市に問い合わせられた方へ配布することで、寄附拡大につなげていきたいとの答弁でした。

今後は、返礼品やポータルサイト委託料等の経費について、更なる精査をすると同時に、ふるさと納税制度のしくみについて分かりやすく周知し、寄附の拡大につなげていくよう求めました。

・雲南広域連合負担金(消防分) 267万円の減は、消防職員の採用において一名の辞退があり、減額するものです。

採用辞退により体制に影響はないのかとの問いに、影響がないとの答弁でした。

教育民生常任委員会

委員長 西村 雄一郎

(議案の審査)

委員会に付託及び委託された27件の議案について審査し、全て可決すべきものと決定しました。

(条例等の審査状況)

・雲南市立病院使用料及び手数料条例の一部を改正する条例

個室の使用料について、病院都合による使用の場合や経済的に支払えない場合はとの問いに、事情によっては徴収しない場合もあるとの答弁でした。

・公の施設の指定管理者の指定

指定管理者の指定は、公募により競争原理を働かせ、透明感のある運営をするべきではとの問いに、公募者選定委員会での実績等をチェック、評価をして選定しているとの答弁でした。公募者選定委員会は原則非公開とされていますが、透明性の確保のため公開とするよ



完成間近の市立病院

う求めました。

鉄の未来科学館については、吉田町郷土資料館、菅谷たたら山内との一体的な事業推進で利用者を増やすよう求めました。

(主な予算の審査状況)

・平成29年度一般会計補正予算(第4号)

・小学校教師用指導書・

委員会報告

産業建設常任委員会

委員長 周藤 正志

準拠教材整備事業598万円は、平成30年度から小学校において「道徳」が教科として位置づけられたことから、教師用の教科書等を購入するものです。道徳の成績評価については、本人の成長を文章で表し、進学資料にはしない。また、担当教諭だけで評価・評定するものではないとの答弁がありました。

(議案の審査)

委員会に付託及び委託された37件の議案について審査し、全て可決すべきものと決定しました。

・公の施設の指定管理者の指定

公募・非公募はどことが決定し、その違いは何かとの問いに、担当課が決定する。原則公募であるが、設立の経過や背景及び運営状況で判断しているとの答弁でした。また、

するよう求めました。

(主な予算の審査状況)

平成29年度一般会計補正予算(第4号)

・中山間地域等直接支払制度交付金は、現在、192協定で取り組まれており、1,117万円の増額は、超急傾斜取り組み加算の要件緩和に伴う面積の増加によるものです。これまで超急傾斜は7協定が対象だったのが、要件緩和により110協定が対象となり、うち103協定が取り組み、200haの田が加算措置される。残り7協定については、取り組みへの支援を推進するとの答弁でした。

・スポーツ施設の個別施設計画策定支援事業214万円は、大東体育文化センター、掛合体育館、木次体育館、斐伊体育館それぞれ老朽度、利用率等を調査するものです。事業の目的等との問いに、調査対象は古いものから4施設選択し、施設の改廃等の判断材料として客観的に専門のコンサルタントが調査するとの答弁でした。施設を廃止するための調査かとの問いには、必要な施設は長寿命化を図るとの答弁でした。

人件費の算出基準はあるかとの問いに、過去3年間の実績をもとに算出しており、単価を一律に定めてはいない。なお、第3セクターについては、職責による基準があり、これに依っているとの答弁でした。公の施設の指定管理については、近隣施設などは一体・統一的に扱ったり、人件費の算出基準や公募・非公募のあり方など、さらに検討

・清嵐荘整備事業の6,885万円の増額については、現施設で使用している備品を保管・移送する経費に348万円、平成30年5月末を目的とする現施設の解体工事に

600万円、施設用地の取得費を332万円増加し、電柱移転補償に205万円を充てるとの答弁でした。



改築予定の清嵐荘



たたらば壺番地浄化槽

・道の駅たたらば壺番地整備事業950万円の増額については、浄化槽の改修を後処理から前処理施設に変更することに伴う工事費の増によるものです。この整備は、9月補正で275万円を増額補正したばかりであり、整備計画について十分に関係機関等との調整がされていないことが原因です。今後このようなことが生じないように強く申し入れをしました。

一般質問

基本的に本人提出の原稿をそのまま掲載しております。質問項目すべてを載せているものではありません。

行政サービスと木次線活性化



中林 孝

問 土日の閉庁時に住民票の交付依頼があった際の対応を伺う。

答 郵送請求、代理人請求等で対応している。

問 住民票等のコンビニ交付はできないか。

答 大田市は来年、江津市は再来年から実施予定。松江市・出雲市などは実施済み。本市も導入に向け協議中である。

問 木次線を三江線の二の舞としてはならないか。

答 木次線は大事な社会

インフラと認識。県や国

問 他県知事は路線存続に積極的に動いている。政治や行政の関与が不可欠と考えるが所見を伺う。

答 存続に向けた地元の強い意志が必要。議会・

住民・行政が一体となつて取り組むことが必要だ。

問 交通政策基本法に則ってJRと詰めた協議を行うべきだ。

答 公共交通の整備は国の責務でもある。沿線自治体と県が一体となつて国に求めていく。

問 本市がJRの株主となつて協議する方法もある。検討してはどうか。

答 検討はするが、すぐに株主となることは考えていない。

的確な計画と予算措置で事業推進を



小林 眞二

問 たたら侍上映状況と観光戦略としての評価は。

答 観客動員数約20万人、興業収入約2億円、出雲たたら村入場者は約3万人であった。本市の自然と文化を知っていただいたいと思う。

問 清嵐荘改築は当初総事業費10億（宿泊棟7億）であったが約20億円となった要因は。

答 今回の改築は、観光振興、経済の波及効果を目指すもので、規模も66人定員に設定した。耐震設計や面積の増、人件費や資材の高騰によるもの。

問 中活事業認定を受け一年経過する。ホテル建設が未確定の原因は。

答 9月にリース方式の提案があり、11月に改め

て自社建設を要請した。

問 映画事業、清嵐荘改築、ホテル事業、6次産業化は的確な計画や予算の立案において、詰めが甘さがあるのでは。

答 合併特例債の期限が間近で優位な財源を活用するため、平成30年前後はビッグプロジェクトが集中した。中期財政計画に裏付けられた実施計画の範囲を逸脱しないよう事業を進めていく。

地域事情に配慮し端境期に工事発注を



佐藤 隆司

問 現状、年度末（3月）に工事が集中する傾向になつていないか。

答 平成27・28年度とも、11月末までに80%を上回る工事発注をしている。今後一時期に集中しな

いよう年間を通じた分散化に努める。

問 早期工事発注の配慮は評価するが、完成工期は年度末に集中している。業界の端境期である4月から5月の気候条件の良い時期に工事ができるよう、地域事情にあった配慮と工夫で発注者・受注者のストレスにつながる負担感の軽減も必要だ。

答 早期発注により、12月頃に工事完成できることは大切であり、年間スケジュールを組み分散化できるよう努めたい。

問 弾力的な工事発注方法の工夫や冬季の天候不順の地域事情に配慮し、端境期への工事発注は、公共事業が減少していく中で、働き方改革や担い手確保にもつながるため対応が必要だ。

答 道路や橋の維持修繕工事や小規模修繕工事などによりできるだけ平準化をしていく。

交流センターの
木造化計画は



堀江 治之

問 平成25年に交流センター施設整備計画が発表され、施設の木造化推進を計画されたが、未だ実施されないのはなぜか。

答 木材利用の勉強会、関係者の会、円卓会議を実施してきたが、市内産木材活用は、2年前から準備が必要であることがはっきりし、直近での交流センターの改築には、間に合わない。

問 雲南市公共施設の改築、新築における木造建築を推進するとされているが、その具体方針は。

答 雲南市木材の利用促進に関する基本方針、雲南市公共建築物等木材利用行動計画をもとに推進しているが、現在の利用率は低い状況である。

問 平成30年度予算編成に当り、投資的経費のうち、重要大型事業の予定事業は。

答 平成31年度の合併特例債適用期限を控え、平成29年2月に策定した実施設計を基本とし、4給食センターの統合学校給食センター、国民宿舎清嵐荘、春殖交流センター、健康づくり拠点整備、木次こども園整備、永井隆記念館を予定する。

農業を活用した
健康づくりを



細木 照子

問 鳥根県は、人口当たりの百歳以上の長寿者が5年連続日本一だと言う。

その要因が、競技人口全国トップのゲートボールの最適運動量。2番目にデザイナーズ施設の人

口比日本一多いこと。3番目にエゴマ油の活用。4番目に読書好き、などがあるという。

また、早稲田大学の研究グループは、農業者は長寿で元氣、農業者はピンピンコロリ型、農業者は後期高齢者医療費が非農業者の7割という健康調査結果を発表した。

そして、鳥根大学研究グループも、農業従事者は低い有病率、高齢者に有益性実証へ、という調査結果を発表した。本市としても、農地の有効活用を兼ね、健康づくりに農作業を積極的に取り入れた指導はできないか。

答 鳥根大学の農業が持つ健康効果調査は、本市の集団特定健康調査に合わせ実施した。農作業運動を中心とした健康づくりに努めたい。

コウノトリの
保護対策は早急に



矢壁 正弘

問 コウノトリの住みやすい環境づくりが急務だ。保護対策としてどのような施策を考えているのか。

の調査結果をもとに環境保全エリアを把握し、国や県とともに保護対策をより深めていきたい。

問 市内の各小中学校でコウノトリに対する知識を深め、環境対策等の教育に役立てる考えは。

答 コウノトリは市内各地で目撃されているので、各小中学校でも知識を深めていくことは重要と考えている。

問 園芸振興計画により、水耕野菜など推進すべき6品目が選定された。今後どの品目を市の特産として奨励していくのか。

答 いずれの品目もそれぞれの経営に対応し推奨していきたい。

問 農業用取水堰の大半が老朽化のため修理が必要となっている。本市としての対策は。

答 国の補助事業を活用しているが、採択条件がクリアできないのが現状。市長会要望で、採択条件の緩和等を県を通じ国に要望している。



市内を雄飛するコウノトリ

障がい者の雇用と所得の評価は



藤原 政文

問 障がい者の雇用、工賃に対する評価は。

答 一般就労は、法定雇用率2%に対し、1・81%。福祉就労は、就労継続A型で、昨年の平均工賃7万586円、同B型は、同2万1,254円で、県平均より2,260円程高い。

問 農福連携による障がい者雇用、工賃の拡大の可能性は。

答 農福連携は、障がい者所得の向上につながる。障がい者が作業しやすい環境、作業方法の工夫など課題がある。今後、農家のニーズに応える福祉事務所の掘り起しを進め、拡大に努める。

問 来年度予算編成にあたり、農業振興策および

市道の落石防止対策に対する考え方は。

答 農業の新たな地域の担い手育成支援、経営安定支援、農地集積支援などを国県補助金を取り入れ計画する。また、落石防止は、危険度の高い6カ所の整備を検討する。

問 学校の校歌は、市の財産であり心の糧だ。市内の校歌集を市民が作る時、行政は協力するか。

答 しつかり支援する。

介護保険料の引き上げを抑えよ



上代 和美

669円が見込まれているが実際どれぐらいになるのか。

答 現在、介護保険事業審議会で審議中、2月に答申がある。サービス利用者の増加により、給付費の伸びが見込まれ、増額になることは避けられない状況である。

問 65歳以上の第1号保険者にとっては、年金が減らされる中で大変な負担増となる。基金の取り崩し、一般会計からの繰り入れなどで負担の軽減を図るべきではないか。

答 いろいろな手法を使いながら、市民の皆様の負担をしっかりと考えた上で料設定を検討する。

問 保険料滞納の制裁措置を受けている方で、必要な介護を受けられない事態になった時のセーフティーネットはあるか。

答 なんらかの介護が必要とならなれた場合は、介護保険以外のサービス利用で支援をしている。

あいサポート運動の推進を



中村 辰眞

問 12月1日に配布が開されたヘルプマークの効果をも十分に発揮するためには、あいサポート運動を積極的に展開する必要がありますと考える。本市として、あいサポート養成講習会等の開催の考えは。

答 島根県社会福祉協議会と各市町村が協力して、地域、職場、学校単位でサポーター講習会が開催されている。本市単独での講習会の開催は考えていないが、社会福祉協議会と連携し、普及啓発に努める。

問 災害時における情報収集手段として、AMラジオが有効である。ラジオの受信できない地域が多い本市はどのように不

感対策に取り組まれているか。

答 市民の皆様や、放送事業者と情報の共有を図りながら、事業者に対して一緒に難聴解消の要望等を今後検討していく。災害時の避難場所については、ケーブルテレビ組合のほうで、データ放送を流すような仕組みを進めている。



ヘルプマークとヘルプカード

大規模事業と財政
市民要望への対応は



細田 実

問 大規模建設事業が多く取り組まれている中で、福祉、教育予算、市民の身近な要望への影響も心配されるがどのような財政運営を行っているのか。

答 中期財政計画に裏づけられた実施計画をたて住民の皆様の同意を得ながらやっていく基本スタンスだ。大規模事業は財源対策を講じながらやっていく。大規模事業のありを教育、福祉とかが受けてはいけないことは言うまでもない。

問 身近な生活道路の維持、改良について日々住民の要望を聞く。道路パトロールなど実施され、実態を掴んでいると思うが改善に生かされているのか。現場の声が市執行

部全体で共有されているのか。改善が遅いのではないか。

答 優先度をもって緊急性の高いもの、危険性の高いものから取り組んでいることから、地域要望の全てを直すということにはいかないところもある。早い時点で修繕するよう努力する。市民皆さんの協力で環境を守っていたらいいが、高齢化によって困難性もあるので地元と協議しながら整備に努めていく。

既存企業への
支援を考えるべき



周藤 正志

問 市が持続可能で活力と賑わいがあるためには、若い人が正規で働く場がないといけない。誘致企業立地のための施策だけではなく、一人でも若い

人を雇用してくれる既存の企業・事業所に対し、支援や助成の方策を考えるべきではないか。

答 今年度、企業立地促進助成金制度を見直し、拡充の検討をしている。既存企業の新たな投資や雇用に対しても対応していく考えだ。

問 市内産品の開発・販路拡大も大切な取り組みだ。もっと市民への周知PRを行い、市民にもSNSなどで拡散の手伝いをしてもらうべきだ。カタログギフトは、せっかくの良い試みであり、1回で終わらすべきではない、継続が大事だ。

答 意欲のある民間事業者の継続的な事業となるよう取り組みたい。

問 「人口の社会増」への取り組みの実績と課題は何か。

答 人口減少に歯止めがかかっていない。特に20代、30代、子育て世代の松江市・出雲市への流出が大きな課題だ。

議会運営委員会視察研修報告

委員長 深田 徳夫

香川県東かがわ市議会
議会ICT化（ペーパーレス化）について
愛媛県東温市議会
議員定数について

香川県東かがわ市議会全国的に議会のICT化に向けての取り組みが進められている中で、雲南市議会でもその検討の必要性があり、平成28年6月定例会よりタブレットを活用した本会議を実施している市議会である東かがわ市議会を視察しました。タブレット導入に向けて設置された当時のICT推進部会委員長より導入までの経過について詳しく説明を受けました。

初年度は導入コストがかなり、経費は120万円の増額となります。2年目は50万円、3年目は20万円の経費増ですが、4年目以降は70万円の削減が図られるとのことでした。



東かがわ市議会

愛媛県東温市議会

雲南市議会は、2020年11月に次期改選を迎えるにあたり今期無投票での改選状況も踏まえ、定数の検討が求められています。その検討に資す

るため、同規模自治体である東温市議会を視察しました。

東温市は平成16年9月21日、重信町と川内町が合併し、誕生しました。東温市の市勢

面積 (平成28年4月1日現在)
211.30 km²

人口 33,774人



東温市議会

世帯数 14,605世帯

議員定数 16人

・平成27年1月以降、全国813市のうち、151市が議員定数を削減している状況を踏まえ、定数削減が方向づけられました。

・愛媛県内他市の議員数を議員一人当たりの人口として算出すると、約2,000人となっており、東温市は議員数が、16.5人となることから議員定数を16人と決定しました。

・議員報酬については、愛媛県11市の中で最も低いため、志を立て議員を目指す若い世代の優秀な人材の輩出を図るためにも改善が求められるとのことでした。
今後、本市においても議員定数と報酬の両面を検討する必要があると感じました。

島根原子力発電対策特別委員会視察研修報告

委員長 佐藤隆司

島根県西ノ島町・隠岐の島町

隠岐ハイブリッドプロジェクトについて

原発特別委員会では10月16日から17日に隠岐郡西ノ島町と隠岐の島町へ視察を行いました。

『隠岐ハイブリッドプロジェクト』は環境省が公募した平成26年度離島の再生可能エネルギー導

入促進のための蓄電池実証事業に中国電力(株)が応募し採択され、平成27年9月末から3年間かけて、蓄電池の効率的な充電・放電を管理する技術の実証を行っているものです。

西ノ島変電所では、再生可能エネルギーの導入拡大に向けて再エネの発電量の変動を調整するために、雲の動きや風速など「早く小さな変動」を吸収する対策としてリチウム電池を、昼間の余剰電力を夜間に活用するなど「遅く大きな変動」を吸収する対策に大容量のNAS電池の2つの特性の異なる蓄電池を組み合わせています。

そして、ハイブリッド蓄電池システムの頭脳となるのが「エネルギー・

マネジメント・システム」です。このシステムによって、隠岐諸島内の電気の使用量と発電量を予測し、蓄電池による充電と放電を調整しベース電源になるディーゼル発電所からの発電量を制御しています。

その他、水力発電所、県営風力発電所、旧隠岐空港メガソーラー発電所も視察しました。



西ノ島町



隠岐の島町

議会広報広聴特別委員会視察研修報告

委員長 矢壁正弘

兵庫県西宮市

議会体感ツアー等の取り組みについて

京都府精華町

ワールドカフェ方式による広聴活動の取り組みについて

平成29年10月18日から19日に、兵庫県西宮市議会と京都府精華町議会へ視察を行いました。

西宮市議会では、議会報告会のあり方について、形にとらわれず、より効果的な住民参加型の広聴手段について研究されていました。より多くの市民に対して、議会を知ってもらい、気軽に議会を体験してもらえる場を市民祭に協賛する形で「議会体感ツアー」を実施されています。議員がガイド役となり、本会議場で議会クイズを実施したり、記念撮影会等が行われます。また、県立高校の校外学習として、「バーチャル市議会体験」を実施し模擬議会が行われ

ていました。



西宮市

精華町では「ワールドカフェ方式」を採用することで、住民との自由な



精華町

会話の中から出てくる、いきいきとした意見や、新しい発想が発掘できる場として期待されています。進め方は、一つのテーマを設定し、4人1組で出された意見を付箋に書き込み、テーブルの上の模造紙に貼っていくものです。「ワールドカフェ方式」は、多様な意見を導き出せることにメリットがあるとのことでした。

第11回 雲南市民 歳末余芸大会

市議会の有志により、12月3日アスパルで開催された、市民歳末余芸大会に出演しました。

議員有志チームは、出演16団体の一つとして、常任委員会に関する重要テーマを「2017雲南トピックス」と題し、総務委員会は瑞風の来訪、教育民生委員会はB&G健康づくり拠点施設、産業建設委員会は国民宿舎清嵐荘の改築を寸劇により市民の皆様にご案内することとしました。

寸劇の練習は、十分に



はありませんでしたが、議員個人の演技力と変装や小道具で余芸大会を盛り上げられるよう頑張りました。来場された皆様の寸劇への笑いと拍手に感謝いたします。



出演者（議員有志）

藤原信宏、山崎正幸、深田徳夫、小林眞二、堀江治之、周藤 強、細田 実、安井 誉、土江良治、藤原政文、周藤正志、佐藤隆司、細木 照子、白築俊幸、矢壁正弘、原 祐二、中村辰眞、松林 孝之、中林 孝

中学生が本会議を傍聴

12月11日、12日に木次中学校の3年生が一般質問を傍聴しました。生徒の感想文を一部ご紹介します。(原文のまま掲載)



小林 海竜さん

議場に入る前に、念入りに注意されたり、先生から配られた資料にもたくさん禁止事項が書かれていて、市議会というものがそれだけ大切なものなんだと知りました。農業のことが聞けなかつたので、コウノトリのことや、自分の地区の議員さんが話しておられるところも見えたかったです。

山口 俊樹さん

自分が思っていたよりもおもしろく、もつと聞きたいなと思いました。木次線が三江線に続き廃線になる可能性があると知ることができ、それを防ぐために、駅の活性化や市内高校のPRが大事なんだなと思いました。自分もイベントに参加し、乗る人が増えるといいと思いました。

川上 舞琳さん

テレビや教科書で議会の様子を見ると自分には遠い感じがしていたけど、雲南市議会は身近に感じられ、どの議員も真剣に雲南市のことを考えておられたと思います。また思っていた以上にすんなりと議会が進んでいたことにも驚きました。

嘉本 英笑さん

議会を傍聴したのは初めてで、議場内はとても緊張感がありました。私は木次線を使って出雲や松江に行くことが多いし、色々な所に行くという点ではとても便利だと思います。木次線がなくなってしまうと改めて感じました。

原 暖人さん

雲南市をより良くしていきたいという思いが、皆さんにはあるからこそ、議会を開いて話し合っているんだなと思いました。身のまわりにあることについて話しておられたので、僕たちの気づかない所で頑張っておられる方はすごいと思いました。

渡部 瑞希さん

自分の身近にあることを話し合っているのを聞いて、市議会や議員の方のおかげで雲南市ができていんだと実感した。授業で習った言葉も出てきて自分でも考えることができ、一緒に話し合いに参加している気分になったし、雲南市をよりよいものにしていくために日々議論されていることを思うと、雲南市に住み続けることもいいなと思った。

雲南市議会議員定数等検討会議を設置

平成29年12月定例会において雲南市議会議員定数等検討会議を設置しました。

この会議では、次期改選時の議員定数、報酬のあり方等について検討するものです。設置期間は平成29年12月8日から概ね1年間です。

検討会議のメンバーは左記のとおりです。

雲南市議会議員定数等検討会議

- | | |
|-------|-----------|
| 委員 長 | 深 田 徳 夫 |
| 副委員 長 | 周 藤 強 |
| 委 員 | 松 林 孝 之 |
| | 白 築 俊 幸 |
| | 周 藤 正 志 |
| | 西 村 雄 一 郎 |
| | 安 井 譽 |
| | 細 田 実 |
| | 堀 江 眞 真 |
| | 小 林 眞 二 |
| | 山 崎 正 幸 |



議会報告会

議会活動に対する市民の皆様からの声を直接お聞きし、議会に反映するため「議会報告会」を開催しています。

今回は、11月8日～17日、市内の5会場で開催し137名のご参加がありました。多数のご意見を頂きましたので、その一部を会場別にご紹介します。

【大東会場】

◆県道24号線は一日の平均交通量が8,300台と多く危険箇所も多い。通学や園児の送迎時の事故が心配だ。市が一緒にあって県に要望してもらいたい。

◆振興会を通じて道路整備をお願いしているが人によって対応が違う。いつまでたっても直らず困っている。

◆米の生産調整が無くなる。農業は市の産業の柱だ。農業振興策を打ち出すべきだ。

【加茂会場】

◆道の駅たたらは壱番地のお客が相当程度、高野へ流れているようで困っ

ているとの話だ。市もアドバイスすべきだ。

◆大雪の際、除雪した国道の雪が歩道をふさぎ小学生の通学に支障があった。また、夏には草が生い茂って歩道を歩けない。市として県や国に声を届けてほしい。

【木次会場】

◆認定農業者、集落営農組織ばかりでなく、休耕田を利用してそばを栽培している団体等にも機械等の整備費用を支援すべきだ。そうした団体も中山間地の農地保全のため一翼を担っている。

◆有害鳥獣の被害が増えている。休耕田となって荒れ放題になったことも一因。駆除の補助も大事だが、根本となる農地の保全が重要だ。

◆海外では林業のサイクルを確立し、ペレットストーブの活用など環境にやさしい社会を実現している。林業活性化のため、ペレットボイラーを各家庭に普及させてはどうか。

【三刀屋会場】

◆林業は儲けが出ないのに50年も固定資産税を払っており面白くない。市で買ってもらえないかな方法はないか。

◆人口増加策として子育て支援は充実されてきているが、そもそも結婚する若者が少ない問題もある。出会いの場や子供を増やす政策が必要だ。非正規雇用のため結婚できない、子育てに自信がないとも聞く。総合的な対策が必要だ。

【掛合会場】

◆道路の草刈りで、市は年一回だけだ。農地に近いたところは地元が刈らねばならず、だんだん戸数が減って負担が増えてきている。行事は多いし年をとって体力が落ちて大変だ。

◆波多は市立病院に行くより飯南病院が近い。加茂の温水プールに行くより美郷町ゴールデンユートピアが近い。他自治体の施設利用時の補助をお願いしたい。

編集後記

皆様には穏やかに新年をお迎えになったこととお慶び申し上げます。

新しい年がどんな年になるか、毎年誰しも気になるところであります。干支で言うと今年は戊戌（ごごう）。この2字には同じ「気」が重なっており、その気が盛んになる時、結果として良い場合は更に良くなるが、悪い場合は更に悪くなるということです。雲南市にとっては、当然ながら前者であって、

良いことを更によくする年でなければなりません。平成16年の合併以来、基礎固めの10年が過ぎ、続く飛躍の10年に入って、はや4年目を迎えた本年。地方創生の最重要施策である人口の社会増対策も、なかなか結果が出せない状況にあります。本市の更なる発展に向けて、本市議会も全力で頑張つて参ります。

◎

請願・陳情の提出について

3月定例会の請願・陳情は2月28日17時までに、議会事務局へ直接提出して下さい。

上記の受付期間を過ぎた請願・陳情は、次回定例会での審査となります。

議会広報広聴特別委員会

委員長	矢壁正弘
副委員長	中村辰真
委員	中林孝之
	松林孝之
	原祐二
	白築俊幸
	周藤強
	山崎正幸